

Ai Life

AISAI CITY, AICHI

愛西市勢要覽

暮らし = ひと × 絆 × 健康

名古屋経済圏の一角にありながら、
木曾三川の恵みが広がるまち。
交通ネットワークの充実と、安心できる生活がかなうまち。
子どもも、おとなも、お年寄りも、みんなが心豊かに過ごせるまち。
いま、日本中の人々が目指しているこれからの暮らし方、
その答えの一つが、
「Aiがあふれる」このまちにあります。



まちをあげて
サポートする
子育て

名古屋市との
ちょうどいい
距離感

0歳から始まる
食育と健康づくり

地域で支えあい
まちを
盛り上げる

愛西市で 実現できる暮らし



Life = People × Relationships × Health
A city located in a corner of Nagoya's economic zone,
but with the blessings of the Kiso Three River system.
A city with a great transportation network, where you
can live with a feeling of security.
A city of abundance where children, adults, and the
elderly can all live together.
With people across Japan now looking for a modern
way to live, here is a city with an answer: A city where
the "Ai (Love) overflows."

おおきな愛に包まれて、 ゆっくりと未来を育むまち。

子どもを出産し、育てていくのにふさわしいまち。
それが、愛西市が目指すまちづくりの一つの柱です。

充実した子育て環境をつくることは、愛西市の未来をつくること。
だからこそ、行政、地域社会、家庭が一体となった、
愛があふれる仕組みづくりに取り組んでいます。

A city wrapped in a blanket of love, nurturing the future.
A perfect city in which to have and raise children.
One of the city-building precepts Aisai set out to achieve.
The city of Aisai is creating the future by creating a good environment for raising children.
It is to create this environment full of love that the government, community, and family come together.

名 古屋市など多くの都市の
通勤圏にありながら、緑あふれ、
水辺の心地よさを満喫できるまち。

大都市近郊に位置しながら、木曽川をはじめとする豊かな水辺空間と田園風景が広がる愛西市。その魅力あふれる自然空間と調和した公園や施設など、「親子でふれあい・遊び・学ぶ」ことができる環境を活かし、子育てしやすいまちづくりを目指しています。



●まち中でも水辺を楽しめる相ノ川



●水辺に広がる広大な東海広場

季 節の流れを実感できる、おだやかなまち。
感受性豊かな子どもに育てることができるまち。

市民全員が参加できる「ニュースポーツフェスティバル」をはじめ、学校の授業や地域コミュニティのイベントを通して、子どもたちが多世代と交流し、地域の魅力を発見できる場をつくっています。



●地引き網漁の体験



●ニュースポーツフェスティバル



健 康的で安全、活気に満ちた学校など、
子どもたち一人ひとりに合った教育環境づくりが進むまち。

子どもたちが自ら学ぶ意欲を応援し、「生きる力」「心の教育」を大切に
した教育環境づくりを目指しています。また、地域の歴史や風土を知り、
伝統・文化を体験できる取り組みを通して、郷土を大切に思う気持ちも育みます。



●耐震性、環境性に配慮した学校づくり
／佐織中学校



●意欲的に学び、成長する子どもたち

地 域の人々が温かく見守り、支え合い、
子どもたちの成長を共に喜ぶことができるまち。



●ボランティアによる読み聞かせ／中央図書館



●子育て支援センターでのイベント

市民ボランティアが中心になって、中央図書館などで親子を対象にした絵本の読み聞かせを行い、子どもたちの創造力、読書への興味を促す機会を提供しています。また、地域の児童館や子育て支援センターを拠点に交流事業やイベントの企画、さらに子育てや家庭、地域の生活などについて話し合い、考える活動を行うなど、市民が主体となって子どもたちの健全な育成をサポートする取り組みが進んでいます。



●あいさいっ子相談室／子育て世代包括支援センター

安 心して出産し、育てることができる
頼りになるサポート体制が整っているまち。

子育て家庭が暮らしやすいまちにすること、安心して出産し、子育てができる環境をつくることは愛西市の大きなテーマ。妊娠から子育て期の家庭をしっかり支え、切れ目のない支援体制を整備することで、安心して子育てができ、また子どもたちが地域のさまざまな人とのつながりの中で心豊かに育つことができるよう、子育て世代包括支援センターを軸とした環境を整えています。



●生後1か月～3か月までの赤ちゃんとママが交流する「びよびよサロン」

INTERVIEW

愛西市で安心して出産し、育てていただくために、
地域とのつながりを大切にした支援体制を整えています。

「みんなの手で子育てしやすいまち・子どもが健やかに育つまちをつくろう」という思いを込めて誕生した愛西市子育て世代包括支援センター「あいさいっ子相談室」。お子さんの発育や成長に伴う悩みや不安、園や学校での困りごとなどに対し、保健師や助産師、保育士などの資格を持つ母子コーディネーターが相談相手となり、一緒に考え、応援しています。必要に応じて、地域の児童館や子育て支援センター、保育園や幼稚園、小中学校、医療機関、保健所、児童相談センターなどと連携し、それぞれの相談に適したサポートを行います。子育て中の方に寄り添い、安心できるよう支え続ける。それが子育て世代包括支援センターの役割です。

愛西市子育て世代
包括支援センター
清水栄利子さん



だれもが安心でき、 たすけあうまち。



いつまでも、心地よく、いきいきと暮らせるまちへ。
市民と行政が手を携えて、
心通う地域づくりが進んでいます。

だれもが希望にあふれた未来を描くことができる、市民と行政が連携し協働するまちづくり。安全、快適、健康、子育てなどのさまざまなステージで市民が主体となって企画・運営し、そこに多くの市民が集い交流する取り組みが進んでいます。

A city where all help to keep each other safe.
In a city where we can live in comfort, living life to the fullest, the citizens and government move forward hand in hand to develop the community.
The people and government work together to create a city with a future where everyone can achieve their dreams. In a safe, comfortable, and healthy environment for the various stages of life, including child-rearing, the citizens come together as one body to plan and run the community, a place where many citizens can gather and interact.

祭

イベントの企画・運営を通して
多くの市民が協働しやすい環境づくり。

多くの市民がさまざまな活動に参加できる環境をつくるとともに、地域において活動を担う人材や組織の活動をサポート。ボランティアなどに参加する市民のやりがいや達成感を共有することで、市民協働のまちづくりを進めています。



●あいさいママ・マルシェ
NPO、市民、地元の企業や商店、行政が協働して開催する、子育てに特化しながらも市民の交流を促す愛西市独自のイベント「あいさいママ・マルシェ」。地域の人々が力を合わせ、子育て家族と子どもたちの健やかな成長をサポートしています。



●市民体育大会
市内各地区の推進協議会が中心となって企画・運営し、市民の健康づくりと交流に取り組んでいます。



●納涼まつり
毎年開催している「納涼まつり」は、地域の実行委員会が主体となって企画・開催しています。継続的な活動に向けて、あらゆる活動団体と連携を図ることにより、さまざまな世代が楽しみながら参加できるイベントとしていくことが期待されます。

地

域の特性、要配慮者の情報も共有する
市民が主役の防災活動。

熊本地震や東日本大震災・阪神淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時には、自助・共助の重要性が再認識されています。地域における防災活動の重要性が高まる中、平常時からの備えを啓発するとともに、消防団や自主防災組織を中心に地域に応じた防災力の向上を図っています。また、避難に支援が必要な高齢者がどこに住んでいるか、避難所ではどのような配慮が必要なのかなどについての情報共有が進んでいます。



●総合防災訓練



●地区自主防災会合同防災訓練 / 地区の自主防災会が中心となり、地域住民や小中学校の児童生徒と消防団も加わり合同訓練を実施しています。

A i Report

人ひとりが地域への愛着を深め、 安全で、快適なまちをつくる取り組み。

市民が主体となったまちづくりを進めるためには、一人ひとりが、自分が暮らす地域に興味を持ち、愛着を深めるきっかけとなる取り組みが必要です。そこで、地域の豊かな自然環境の保全や環境配慮活動など、子どもからお年寄りまで、だれもが参加できて、しかも多世代が交流できる機会を大切にしています。こうした活動を通して市民協働による快適なまちづくりを進め、次世代に良好な環境を伝えます。



●ごみゼロ運動
地域の良好な環境づくりのため、地元企業や地域住民との協働により、地域を清潔に、美しく保つ活動を行っています。



●親水公園の花壇ボランティア
緑豊かで美しいまちを実現するため広く花壇ボランティアを募集し、多くの皆さんの協力を得て親水公園の花壇を色鮮やかな花で彩っています。



女性消防団員

消防団は、仕事や年齢もさまざまな人たちが「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神で活動している地域密着型の組織であり、消防防災のリーダー。男性が多い組織ですが、愛西市では災害時に女性や子どもの支援をしやすくするために女性消防団員の育成に力を入れています。所属する団の活動に加え、地域の防災活動や市のイベントでの広報活動などでも活躍が期待されています。

大箸 結以さん / 佐織第一分団
消防団に入って、まず自分自身の防災意識が高まりました。そして、町内や地域の皆さんと関わるが増え、顔見知りも増えました。子育て中ですが、家族にも支えてもらえるので、できるだけ長く続けたいですね。

仲間を増やして、女性だけで訓練できるような団をつくれたらいいですね。

中野 麻衣さん / 立田第一分団
高齢の方など災害時に支援が必要な方や小さいお子さんが、どこに暮らしているのかを把握していれば、避難の時にとても心強いです。地域のつながりを大切にしながら、いざという時に役に立てる仕事ですね。

大野 由美さん / 佐屋第一分団
看護師の仕事をしているので、応急手当や救命救急の知識と経験を活かした消防団活動を目指しています。日々の活動では、地元の人々とふれあひながら、地域の防災意識の向上に役立ちたいと思います。

中野 涼香さん / 立田第一分団
イベントでの広報活動などを通して、女性消防団員の存在はすいぶん認知されてきたように感じています。これからは、もっともっと



健康づくり、食育に取り組むまち。

心身ともに健やかに暮らせる、「住むと健康になるまち」。だれもが取り組みやすい健康づくりと食育の提案が始まっています。

一人ひとりの年齢やライフスタイルに合った多彩な健康づくりのメニュー、食事の大切さ、作って食べることの楽しさを実感できる食育。愛西市では、「生涯、いきいきと暮らせる健康づくり」が進んでいます。

A city that provides education about food to promote health.

A city of wholesome living, healthy in body and mind. The city has put into motion plans to provide dietary education, and create a healthy place where all can easily thrive.

With a variety of health promoting programs suitable to people of all ages and lifestyles, the city provides education about the importance of meals, and helps everyone to understand the enjoyment of home-cooked food.

In the city of Aisai, we are creating a place where people can live their entire lives in health.

健康の大切さに気づき、できることから実践する、健康づくりと地域のコミュニティづくり。

市民の健康寿命を延ばし、いきいきと暮らし続けることを目標に、すべての市民が気軽に参加できるスポーツイベントや地域ぐるみで健康づくりを啓発する事業、さらに親水公園総合体育館をはじめ多彩なスポーツ施設が充実しています。



●健康まつり
乳幼児から高齢者まで、すべての市民が健康を維持・増進できるよう、日々の健康管理の大切さを啓発しながら、個人個人のライフスタイルに合った健康づくりに取り組むきっかけの場として、毎年開催しています。



●のびのび健康教室
ストレッチの普及を目指して、愛西市の歌「いつの日も」に合わせた「愛西のびのびストレッチ」を制作。市内の小中学校での運動会や市民体育大会で実施するほか、愛西市健康づくり運動推進協議会を設立し、出前講座や教室を開催しています。



●親水公園総合体育館
トレーニングルームや総合型地域スポーツクラブなど、今までスポーツになじみのない方でも手軽に始められる環境が整っています。



さ まざまなスポーツを通して、木曽川流域に暮らす人々と交流しています。

木曽川周辺の豊かな自然に包まれた緑地や公園は、市民の運動や憩いの場となっています。また、スポーツを通して市民が交流できるイベントの開催、レガッタなど特色あるスポーツの普及など、河川空間の活用による新しい取り組みも進めています。



●交流レガッタ
春には全国から集い、秋には木曽三川公園でつながる岐阜県海津市、三重県桑名市とともに、ボート競技会「地域交流レガッタ」を開催。豊かな河川空間を活用し、自治体の交流を図っています。



●木曽三川公園リレーマラソン
木曽三川公園東海広場を会場に、小学生から大人まで、4人以上10人以内のチームがリレー形式で秋の木曽川沿いを走ります。学校、職場、家族など、さまざまなチームが参加し、交流しています。



●木曽三川公園サッカー場
平成29年に整備された、木曽川の広い河川敷を利用した天然芝のグラウンド。

住 むと健康になるまちを支える、食育への取り組み。

市の健康増進計画「愛西市健康日本21計画(さけい☆あいさい21)」を柱に健康づくり事業を推進しています。中でも食育は、子どもたちの健全な成長はもちろん、食による健康づくり、生活習慣病の予防など、すべての世代に共通する大きなテーマとなっており、日々の食事の大切さや食べる楽しさを伝えるためにさまざまな取り組みを行っています。



●親子でワクワク料理教室
レンコンやトマトなど、愛西市特産の野菜を使うことで地元野菜への興味を深め、料理の楽しさ、おいしく食べる喜びに出会える体験イベント。親子の絆を深めながら食育を実践できます。

A i Report

愛西市のユニークな食育 野菜の歌・野菜体操

「愛西市健康日本21計画(さけい☆あいさい21)」の取り組みの中で、市民に野菜の摂取を推進することとなり、野菜の効果的な食べ方、愛西市特産の野菜などを盛り込んだ愛西市のオリジナル・野菜の歌「届け!野菜の力」が生まれました。子どもの時から野菜を身近に感じ、野菜の大切さを知ってもらうために、そのCDを市内の小中学校、保育園・幼稚園、児童館、子育て支援センターに配布しています。また、この曲を使って体操の振り付けをつくり、地域の集まりや「野菜の日」PRイベントなどで実演し、市民の皆さんの健康づくりにも役立つ取り組みが進んでいます。



野菜の歌「届け!野菜の力」(抜粋)
1日両手3杯 野菜を食べましょう
彩りよく食べよう
炒める、煮る、茹でる
魔法をかけましょう
料理の腕の見せどころ
野菜を食べると 元気になれるよ
ウンチもどっさり 肌もツヤツヤ!

あいさいさん 野菜さんを食べよう
あいさいさん 野菜さんで元気出せ

若い力を活かし、 創造あふれるまち。

若い世代の人々が、積極的に社会参加できるまち。
世代間交流を促し、地域を元気にしていく取り組みです。

地域に根ざした中学生の活動。学校での学びを活かした高校生の実習体験。
そして、大学生による専門性を活かした提案。
若い世代の創造力が、これからの愛西市をつくっていきます。

A city full of creativity, utilizing the power of youth.
A city where members of the younger generation can actively participate in society.
There are events designed to energize local communities, promoting communication between all generations.
The local activities of junior high school students; the practical education of high school students; and the plans of university students to use their specialties: The creativity of the younger generation is what will shape the future of Aisai.

高 校生たちが盛り上げる 愛西市の一大イベント。

愛西市民の一大イベントとなっている文化祭・バザーをはじめ、スポーツフェスティバルや地域のイベントに、地元の高校生たちが積極的に参加し、盛り上げています。地域の伝統芸能を継承したり、地元の産業である農業を学んだり、日ごろの授業や部活動の成果の発表を通して市民の皆さんと交流し、活気あるまちづくりに貢献しています。また、若い世代が住み続けたいまちにするために、高校生たちが考え、提案する取り組みも始まっています。



中 学生がボランティアで支える 地域の納涼まつり。

毎年8月上旬、市内で開催される納涼まつり・盆おどり大会。愛西音頭をはじめとする盆おどりをメインに、抽選会やバザーなど、地区それぞれに趣向を凝らした催しは、愛西市の夏の風物詩。世代を超えて多くの市民が集います。実行委員会の皆さんとともに、盆おどりの櫓やテントなどの設営を担うのが、ボランティアで参加する地域の中学校の生徒たち。大人たちと力を合わせ、まつりを支え、盛り上げています。



●高校生たちが市の課題と解決策を提案するワークショップ。



●木工や電気の講座で小学生とふれあう佐織工業高校の生徒さん。



●文化祭・バザーで、学校の実習で育てた花や野菜を販売する佐屋高校の生徒さん。



大 学生たちの専門知識を活かした、 季節の野菜を美味しく食べるレシピ。

農業は愛西市の基幹産業ですが、高齢化と後継者不足により年々縮小しています。そこで、「愛西市、愛西市農畜産業振興会と名古屋学芸大学との連携協力に関する協定」を締結し、産官学の連携によって農業の活性化と市民の健康増進を目的とした取り組みが始まっています。名古屋学芸大学の管理栄養学部の学生たちが愛西市特産の野菜を使用したレシピの作成を担当。管理栄養学を学んでいる学生たちの専門的な知識と若いセンスで若い世代へのアピールを目指しています。季節の野菜を使い、季節ごとに3品ずつ計12品のレシピを作成し、野菜のおいしさ、野菜のパワーを伝えています。



●野菜の日のPRイベントに訪れた市民と名古屋学芸大学の学生の皆さん



●佐織工業高校の伝統ともなったミニ鉄道。地域のイベントに積極的に参加し、子どもたちの人気者です。



●スポーツフェスティバルで子どもたちと交流する清林館高校の生徒さん。

A i Report

愛西市伝統の農業に、新しい発想とアイデアを。
つくることも食べることも大好きな高校生のチャレンジ。

市内にある愛知県立佐屋高等学校には農業科があり、伝統的に稲作、レンコンやトマトの栽培など愛西市特産の農産物の育成を学んでいます。稲作ではアヒルのひなを水田に放ち、害虫や雑草の駆除に役立つ無農薬農法を研究し、生物多様性を保全する活動も行っています。特産品であるレンコンは栽培の技術継承と地域活性化につなげる商品開発、広報活動などに取り組んでいます。レンコンなど特産品を使ったメニュー開発では農業科だけでなく学校中の生徒も積極的に参加。地域の飲食店と一緒に地元野菜を使った料理やスイーツを考案したり、大手チェーンと共同でカレーを開発するなど、地域はもちろん全国でも話題となるアイデアメニューを開発し、愛西野菜の普及に貢献しています。



東海3県の接点は があふれています。

Ai



岐阜県、三重県との県境となる木曾川・長良川に接する愛西市は、愛知県の西の玄関口に位置し、古くから日本の東西交通の要衝として歴史を重ねてきました。木曾三川の河口に近い市域一帯は肥沃な水郷地帯で、水との深い関わりの中で生まれた独自の文化が息づくまち。名古屋市を中心とした経済圏の中にありながら、豊かな自然と共生し、市民が世代を超えて支え合う、だれもが住みやすいまちづくりが進んでいます。

Message

一歩足を踏み入れると、どこか懐かしく、穏やかな空気を感ぜられる愛西市。木曾川の豊かな水と緑あふれる自然豊かな環境は、ここに住む人、ここを訪れた人に安らぎと心地よさを与えてくれます。愛西市は、レンコンを始めとする農業が盛んなところとして歩んできました。現在は、鉄道や高速道路のインターチェンジに接して主要都市と結ばれている利便性を活かし、企業誘致も進め新たな可能性を伸ばし始めています。長い歴史の中でこの地で育まれてきた産業と新たな可能性を秘めた産業の融合は、愛西市が未来に向かって発展する希望に満ち溢れています。平成30年、愛西市は「ひと・自然・愛があふれるまち」の実現に向け、市民の皆さんと共に策定した「第2次愛西市総合計画」を新たな羅針盤としてスタートを切りました。「市民が主役の物語」はすでに始まっています。市民の皆さんとともにすばらしい物語が描けるよう、そして多くの方にこの物語を知っていただくため、愛西市は成長し、発展を続けます。

始まっています。 市民が主役の物語。

■ 市章

一般公募により応募された中から、平成17年2月10日、第25回海部西部合併協議会において決定しました。愛西市の頭文字である「あ」のローマ字「a」をモチーフに、濃尾平野の豊かな緑とすがすがしい空気、木曾川、長良川の恵まれた自然を表現。人々が連帯し飛躍する市民の姿を思い、赤の太陽で地域の飛躍を表現しています。



■ イメージキャラクター／あいさいさん

「あいさいさん」は、愛西市の自然が生んだ「謎の生物」です。おおらかでのんびりな反面、何事にもチャレンジ精神旺盛です。野菜が大好きで、常に野菜(友達)をポケットにもっています。愛西市の豊かな自然とその恵みとをつなげる「輪」を、「人と自然のつながり」や「人と生物のつながり」として、みんなに大切にしてほしいといつも伝えています。



■ 市の木・市の花

愛西市誕生1周年を記念して一般募集で決定し、平成18年12月10日に制定されました。

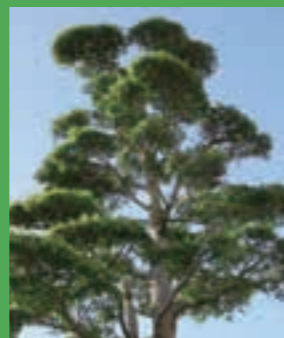
市の花／ハス

全国的に知られたレンコンの特産地で、ハス田に咲く花は、市を代表する自然の風景です。花の最盛期には、その美しさに惹かれ多くの人々が訪れ楽しませています。身近で気品のあるこの花が市民により一層親しまれるように、市を代表するイメージの花として決定しました。



市の木／マキ

市内で古くから生垣や庭木として屋敷内に植えられ、風土に適し親まれてきた樹木で、威厳と風格があり、四季を通して緑を楽しむことができます。この木が太陽に向かいまっすぐに伸びるように、愛西市が未来に向かって賑わいと活力にあふれるまちづくりを目指すイメージで決定しました。



■ 市のデータ

面積	66.70km ²
人口	63,792人(平成30年1月1日現在)
男性	31,207人
女性	32,585人
世帯数	23,102世帯



愛西市は愛知県で32番目に誕生した市。あいうえお順では愛知県で1番で、全国でも兵庫県の相生市に次ぐ2番目になります。

At the place where 3 prefectures of the Tokai area touch, the "Ai(Love) overflows."

Touching both the Kiso and the Nagara Rivers, which make up the border of Gifu and Mie Prefectures, the city of Aisai lies at the western gateway of Aichi Prefecture. This location has given it a long history of being an important hub of east-west traffic in Japan. Positioned on fertile lands close to the mouth of the Kiso Three River system, the city has developed an independent culture with strong ties to the surrounding water. While it is in the economic region dominated by Nagoya, it has an abundance of nature and is proceeding with its own plans to develop a place that transcends generations, where everyone can live together in comfort.



愛西市長
日永 貴章
HINAGA TAKAAKI
Mayor of Aisai City



ひと・自然

愛があふれるまち



■まちづくり3つの視点
愛西市では、3つの視点を大切に、
さまざまなまちづくり
取り組んでいます。

協働

まちの未来を市民と行政
とが共有し、適切な役割分
担と協働によって、地域課
題の解決やまちの発展に
取り組みます。

持続

人口減少、少子高齢化など
社会の変化に柔軟に対応
し、将来にわたって自立で
きる、持続可能な発展を目
指します。

絆

人と人がつながり合い、感
謝し合い、協力し合える、
絆を大切に、安心して暮ら
すことができる地域づく
り、人づくりを進めます。

People and Nature
A city where the "Ai (Love) overflows."
Nature, with an abundance of agricultural products, rivers,
and greenery; and people, with warm hearts and deep
connections to the area. This is the charm and wealth of the
city of Aisai. It is our pride and love in the people and nature
that we wish to pass on to the next generation.
Along with the development of the city, we want this charm
to be beloved by many, both inside and outside the city.
It is with these desires in mind that we have envisioned the
development of our city.

豊かな農産物や川、緑などの「自然」と、
心のあたたかさや地域の絆などの「ひと」。
それが愛西市の大きな魅力であり、財産です。
この「ひと」と「自然」を誇りに思い、愛し、
次世代に伝えていきたい。
まちづくりとともにその魅力が市内外に広がり、
多くの人に愛されるまちになってほしい。
そんな思いを込めて、
まちづくりのビジョンを描きました。

1 子育ての輪 子育てプロジェクト

みんなの手で子育てしやすいまち・
子どもが健やかに育つまちをつくろう

- 子育て世代包括支援センターを軸とした情報提供・相談支援と体制整備の充実
- 関係機関とのネットワークの構築と必要に応じた子育て資源の育成及び開発
- 地域住民の協力による学習の場・体験の場・交流の場の提供

2 ヤングマンパワー 未来創造プロジェクト

若者の声を生かし、
若者が住み続けたい愛西市にしよう

- 学生ボランティアの活躍促進
- 高等学校や中学校との連携事業の推進

3 つながり愛 地域まるごと健康プロジェクト

みんなの意識改革で、
健康寿命を延ばそう

- 若年期から高齢期までの健康づくり事業の実施
- 身近な地域での支え合いによる支援体制づくり
(地域包括ケア体制の整備)

4 コンパクトで快適 集約型まちづくりプロジェクト

豊かな環境を引き継ぐとともに、
便利で快適なまちをつくろう

- 人や企業を誘導する土地利用の推進
- 総合的な公共交通体系の構築
- 豊かな自然環境、農業環境等の確保

第2次 愛西市総合計画

[重点プロジェクト]

私たちは、まちづくりのビジョンを実現して
いくために7つの重点プロジェクトを掲げ、
市民の皆さんとの協働で取り組んでいます。

5 誇りを育む 愛西市PRプロジェクト

市内外への魅力発信により、
市民が胸をはって誇れるまちをつくろう

- 「あいさいさん」の活用、さらなる魅力向上
- PR動画を通じた魅力発信
- 観光客誘導のしかけづくり
- 子どもたちへのふるさと教育の推進

6 みんなで防災 安全・安心プロジェクト

防災・減災の気運を高めて
いざというときに備えよう

- 避難所の周知(出前講座、広報等や発災後を想定した避難訓練等でのPR)
- 地域防災組織の活性化
- 防災に関する情報発信(防災講演等)
- 防災メールのさらなる浸透、スマートフォンアプリを使用した災害情報発信
- 広域的な防災活動拠点の整備

7 つどい・にぎわい 産業活性化プロジェクト

農業をキーワードに、
愛西市に人を呼び込もう

- 農業にふれるPRイベントの開催
- 特産品を利用した6次産業化の支援
- 新規就農者等の育成支援

レンコンをはじめとする農産物、
 地元の商工業など地域に根付いた産業は、
 それぞれが付加価値高く
 新たなチャンスを生み出すことで、
 まちが誇る伝統を
 次代へとつないでいきます。

まちの産業を守る。 それは、 知恵を集め、工夫を重ね、 挑戦を続けていくこと。

濃尾平野の恵みを 地域ブランドへ

木 曾三川の流が生んだ濃尾平野
 の肥沃な土壌を背景に、さまざま
 な農産物がつくられている愛西市。栽培技
 術、生産性を高めるとともに、付加価値の
 高い農産物へと育てるための農産物のブ
 ランド化、新しい味わいを提案するアイデ
 ア料理の創出に取り組んでいます。

Protecting the city's industry by gathering information, combining it with ingenuity, and continuing to push forward.

Industries rooted in the area, from agricultural products like lotus root, to commercial and manufacturing enterprises, each add value and create new opportunities. These serve to connect the city's heritage of pride with the next generation.



伝統、
 だけじゃない
 地元野菜

愛西市は全国でも有数のレンコンの産地。江戸時代の天保年間が始まりといわれる歴史ある地元野菜です。このレンコンをはじめ、稲作やニンジン、大根などの露地野菜、さらにハウス栽培のイチゴやトマトなども盛んで、都市部に近いメリットを活かし、付加価値の高い農業生産に取り組んでいます。

新鮮なアイデアで
 地元野菜の可能性を
 広げよう！

レンコンなど愛西市産の野菜を、さまざまな食品として商品開発し新たな市場を目指す6次産業化、スイーツや料理のメニュー提案など、地域の人々や高校生たちによる、新しいチャレンジに期待が高まっています。



地域産業の 提案型情報発信拠点 「立田ふれあいの里」

「立田ふれあいの里」は、尾張地方で初めての道の駅。地元農家の提案と情報発信の場となっています。市内外から多くの人が訪れる地元でとれた農産物の産直施設をはじめ、特産品試食施設、実演厨房、パン厨房などがあり、特産品を使ったオリジナルメニューが楽しめます。



A i Report



安全でおいしい野菜のブランド 「愛西市ぐるぐる農産物」

「愛西市ぐるぐる農産物」は、愛西市のこだわり農家が丹精こめて育てた農産物。愛西市産の農産物のブランド化を進め、市の基幹産業である農業を市内外へ広くPRするために始まりました。有機栽培、減農薬栽培など環境に配慮した農業者が生産した農産物に、専用のラベルを貼って出荷しています。道の駅「立田ふれあいの里」をはじめ、市内および近隣の産直売場で販売しています。

ぐるぐる農産物という名前には、食べた消費者が「おいしい」「感じもよい」「農家がさらさらやる気になる。めづるべし」という意味がこめられています。

愛西市の農業を子どもたちにも知ってもらうために、小学生向けの教材「愛西市ぐるぐるスクール」を作成。市内の小学生を対象とした「出前授業」も行っています。また、「愛西市ぐるぐる農産物」の普及と食育を目指した親子での体験教室を開催するなど、さまざまな機会を通して農業や農地の必要性、地産地消、食の大切さなどをわかりやすく伝えていきます。

こうした取り組みを通して、愛西市産の農産物の消費量の増加、農業の振興、さらに農業という地元産業への理解と食育につなげていきます。



●小学校での出前授業



●ケチャップづくり体験教室

Set in the center of Japan, a fountain of history and tourism.

Owari has been a strategic point of internal transport since ancient times. The city of Aisai, which touches the Kiso and Nagara Rivers, was once on the western edge of the thriving Saya Road, a branch of the Tokaido Road during the Edo Period. Many cultural heritage sites still remain from this era and from many others in the city's long history, proof of the prosperity of our ancestors. This is the heritage of those living here now, a heritage which we wish to pass on to the future.

古来より日本の国内交通の要衝だった尾張。その西端にあり、木曾川・長良川と接する愛西市には、江戸時代に東海道の脇街道として栄えた佐屋路をはじめ、長い歴史の中で育まれた文化遺産が数多く残ります。それらは、先人たちがこの地で営んできた時の証。今を生きる私たちの財産であり、未来に語り継ぐ希望です。

日本の真ん中で育んだ、歴史と観光資源。



●木曾川観光船
木曾川の葛木港から船頭平閘門を通って長良川へ。四季折々の水辺の自然を楽しめます。

●船頭平閘門 / 明治改修で分離された木曾川と長良川を行き来するためにつくられた日本最初期の複閘式閘門。明治期に建造され、現在も使用されています。国の重要文化財に指定。



●ヨハネス・デ・レーケ像
明治改修での偉業を顕彰し、船頭平閘門の近くに立つ「治水の恩人」デ・レーケの銅像。

川とともに生きてきたまち

愛西市のある濃尾平野は、木曾三川がつくりあげた恵みの大地。豊かな耕地をもたらし、人やモノのつながりを育む一方で、ある時は苦しみをもたらしてきました。江戸時代の宝暦治水、明治中期のヨハネス・デ・レーケによる木曾川改修工事などは、人智が川を制し、暮らしと自然の調和に取り組んできた愛西市の歴史の一面です。

織田信長 ゆかりのまち

野原を走り回り、水辺で魚に戯れ、天王祭の壮麗さに目を奪われた織田信長に思いを馳せる。生誕の地と伝えられる勝幡城跡をはじめ、その足跡を探すまち巡りを楽しめます。



●信長モザイク壁画



●信長親子像



●勝幡城模型

勝幡城跡の最寄り駅となる名鉄津島線、勝幡駅前には、「織田信秀と土田御前に抱かれた幼少期の信長」像、「水郷の吉法師」というタイトルがつけられた若き日の信長のモザイク画、そしてガラスケースに収められた勝幡城の模型が展示されています。

INTERVIEW

600年の伝統を未来へとつないでいくために

尾張津島天王祭での市江車の運行や奏楽は代々口伝でしたが、これからの伝承を考えると映像や文書などの記録を残していく必要があります。また、少子高齢化や跡取りの問題もあり、将来的には世襲・女人禁制という祭のしきたりを守っていくことが難しくなってきました。神事として600年受け継がれてきた伝統を守っていく一方で、祭そのものを維持していくために、女性や旧市江村以外の人たちにも参加していただく必要も出てくるでしょう。こうした取り組みが保存会の大切な役割になります。

ユネスコ無形文化遺産に登録されたのはうれしかったですね。注目が集まる分、責任も感じています。これからも市民の皆さんと交流し、祭のことをよく知ってもらって、愛西市の祭として盛り立てていただければと思います。



市江車保存会会長 佐藤 正直さん



尾張津島天王祭の車楽舟行事
600年近い歴史があり、日本三大川祭のついでに数えられる尾張津島天王祭。その朝祭では愛西市の市江車が先頭をきつて5艘の車楽舟とともに天王川を進み、10人の若者による鉾持が布鉾を手に川に飛び込み、神前に奉納します。国指定重要無形文化財であり、山鉾・屋台行事としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。



木曾の深い山の中で生まれ、
幾筋もの流れを集め、
伊勢湾を間近にして
ゆったりと流れる木曾川が、
奇跡の大地、濃尾平野を
東と西に分かつあたり。
水と緑に恵まれた
豊かな水郷地帯で、
愛西市は四季を刻んでいます。

豊かな水の恵みと 緑あふれる大地。

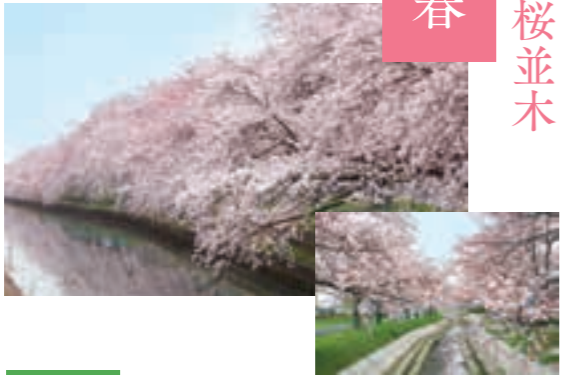
未来につないでいきたい、
実り豊かな大地。

お だやかな大河の流れと、広大な河
川緑地。水稲、レンコンなど多彩な
農産物を育む肥沃な土壌。新しい季節の訪

れを告げる、桜や花ハス、そして渡り鳥。木
曾川下流域の豊かな平野は、悠久の時がつ
くりあげた大自然の産物。このかけがえの
ない財産を、未来へと確かにつないでいくこ
とが、今を生きる私たちの使命です。

桜並木

春



春の訪れとともに、水辺で桜を楽
しむのが愛西流。市内の相ノ川、
鵜戸川、船頭平河川公園など、多
くの桜並木が花見客でにぎわい
ます。

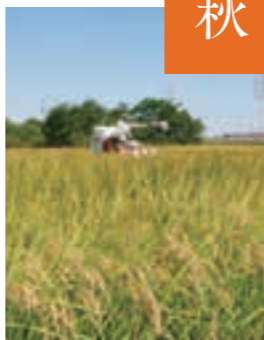
通年



木曾川は、愛西市の豊かな自然の
シンボル。地域の西端となる木曾
川沿岸地域は一部が国営木曾三
川公園内にあり、水と緑があふれ
る開放的な空間は人々の憩いや
レクリエーションの拠点として整
備が進んでいます。

田園風景

秋



高低差のない平坦な水郷地帯。レ
ンコンや稲作の田園風景が広が
り、古くから水辺を活かした親
水空間、自然と調和したまちづ
くりが進んでいます。

木曾川

通年



日の出

山のない愛西市は、空が広いま
ち。遮るものない雄大な日の出
を楽しむことができます。

冬



野鳥

流れがゆるやかで川岸に緑が豊
富な木曾川では、一年を通してさ
まざまな野鳥を目にすることが
できます。秋から冬にかけての季
節には、カモの仲間やコハクチョ
ウなどの渡り鳥が飛来し、静かな
川面で冬を過ごします。

夏



A land abounding with the blessings of its plentiful water and greenery.

Born from deep within the Kiso Mountains, filled by several tributaries, the Kiso River slowly approaches the Gulf of Ise, dividing the miraculous land of the Nōbi Plains into east and west.

Along this luxurious river area, blessed with water and greenery, the city of Aisai watches the passing of the four seasons.

花ハス

木曾川下流域の肥沃な湿地が広がり、立田地区を中
心にレンコン栽培が盛んな愛西市。今も国内有数の産
地として知られています。約300年前の天保年間
に始まったと伝えられ、夏の花ハス、秋から冬の収穫
の様子は愛西市の風物詩です。夏の早朝、太陽の光を
まばゆいばかりに受けとめ、きらきら輝く朝露を浴び
たハスの花。毎年7月初旬の週末には鑑賞田の「森川
花はす田」を会場に連見の会が開催され、多くの人で
にぎわいます。

People × Nature × Tradition = The power of Ai (Love)

The blessings of the Nōbi Plains, the traditions and culture, and the nature endemic to the region are the irreplaceable assets of the city.

Connected with the importance of transcending generations, these assets have not simply been protected, but have evolved with the passing of the ages.

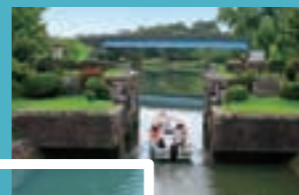
Our goal is for all those living here to continue living with a sense of pride and love in this city.

This city where the "Ai (Love)" overflows" also overflows with possibilities of creating new value while remaining in harmony with nature.

ひと×自然×伝統ⅡAiのチカラ



時代と
ともに
進化する
農業



歴史を
受け継ぎ、
新しい
提案を

活力と
にぎわいの
拠点づくり



愛西市
に満ちる可能性

Ai VALUE



地域に根付いた伝統・文化、そして自然。
濃尾平野の恵みは、
かけがえないまちの財産。

ただ守っていくのではなく、世代を超えて大切につなぎ、
時代に求められるカタチへと進化しています。

目指しているのは、このまちに住むすべての人たちが、
このまちに愛着と誇りを持って暮らしていくこと。

「Aiがあふれる」このまちは、

自然との調和を図りながら、

新しい価値を創造していく可能性にあふれています。



世界に
発信していく
地域の
まつり

伝統の
産業に
新しい発想と
工夫を

緑の大地に
恵まれた
かけがえない
自然



AISAI CITY,
AICHI



Ai

VALE

愛西市勢要覽

発行／愛知県愛西市
〒496-8555愛知県愛西市稲葉町米野308番地
Tel 0567-26-8111
編集／愛西市役所 企画政策部 秘書広報課
発行年月／平成30(2018)年3月
URL <http://www.city.aisai.lg.jp/>



UD
FONT
by MORISAWA